

## 平成21年度「市政懇話会」第3回「環境先進都市」部会議事概要

日 時：平成22年1月20日（水）15：00～16：10

場 所：鳥取市役所本庁舎4階第3会議室

出席者：【委員】下石義忠部会長、谷尾洋介副部会長、池長綾子委員、池原良行委員、宇津原エミ委員、手島秀光委員、八村輝夫委員、三谷信子委員、矢追浩太委員、吉村あけみ委員

【鳥取市】坂本環境下水道部長、生活環境課山田課長補佐、都市計画課坂本係長、学校教育課豊福主査

【事務局】栴谷

### 《今後の部会でのテーマ》

#### 委員

- ・この中で1つ漏れているのが、今後問題となってくると思われる温室効果ガス削減25%の課題である。これについても、環境都市という意味では、何らかの対策を検討するべきではないかと思う。環境基本計画の70ページにも書いてあるが、具体的にどうしたらよいかということも考えてみてはどうか。

#### 部会長

- ・言っておられるのは非常に重要な問題である。今後の議論のテーマとしてそれを加えさせていただく。

### 《意見交換》

#### 副部会長

- ・環境教育については、小学生・中学生など、これからの次世代を担う子どもたちの環境意識を変えていかなくてはいけないのではないかと思う。
- ・実際、例えば学校の授業の中で、環境教育の取組をしたりというのは良く分かるが、机上の空論にならないようにしなければならない。
- ・学校の中で、身近に自然を体感していくというのは非常に重要なことだと思う。
- ・和歌山では、鳥取方式ということで、意欲的に、小学校への芝生化を広めていっているが、芝生化するということで、自然と触れ合う機会がたくさんできてくる。
- ・そういったことを身近な学校の中で実際経験していくということが大切であるし、体力の向上にもつながる。
- ・鳥取市にも、何回か提言してきているが、実際の動きとしては、十数か所の保育園が園庭の芝生緑化をしている。
- ・小学校に関しても何か所があるが、全面芝生という形ではなく、地域のボランティアに支えられながら管理をしているという実情である。
- ・しかし、ボランティアは行き詰ると思うので、やはり公費で維持管理をしていくべきではないかなと思う。
- ・維持管理についても、低コストの維持管理を目指していくべきではないかと思う。

- ・技術的なものに関してはNPOが支援を行い、実際の維持管理は低コストの方法で行う。そうすれば、もちろん雇用も生まれる。
- ・低コストの維持管理体制を作っていくというのも、行政との連携という部分でやってもらいたいと思う。
- ・いつも言っているが、プールを1億円かけて造るより、芝生の校庭を何か所も造る方がメリットがあるのではないかと考えている。
- ・自然の大切さという、見逃しているいいものをもう一回再認識してもらいたいと思う。それには、身近な校庭を芝生化することを目指していくべきではないかと思う。
- ・今、同志社大学の教授が、脳の活性化とか、不登校の子どもが減ったとかいう芝生が影響するメリットを科学的に分析し、今年1年かけて発表するということである。
- ・そういったことも含めて皆さんに議論していただきたいと思う。

#### 委員

- ・今の芝生の話であるが、市としてはどのように考えているのか。
- ・校庭を芝生化したところは、子どもの運動能力も向上しているというのであれば、大いに進める方向で考えた方がいいのではないか。

#### 委員

- ・芝はかなり消毒しないといけないのではないか。

#### 委員

- ・二の丸で芝生化しているが、必ずしもそうではない。

#### 副部長

- ・農薬は一切いらぬ。

#### 委員

- ・美保地区であるが、去年芝生化した。そうすると、子どもたちの怪我が減り、運動場に出て遊ぶ子どもも多くなった。そのようないい面がたくさん出ているようである。
- ・芝の管理のことであるが、ボランティアでお願いすると行き詰るということであったが毎日しなくてもよい。夏休みの水やりと、1年に何回かの草取りぐらいで終わるので、そんなに苦しいということはないと思う。
- ・美保は運動公園に芝刈り機があり、大変助かっている。芝刈り機も市内に何台かあれば、シェアリングすることができる。

#### 部長

- ・雑草はどうするのか。

#### 副部長

- ・雑草というのも実はグラスである。欧米などに雑草という言葉はない。雑草も同じ高さに切りさえすればよい。その状態で表生させていくが、最終的には芝が勝つ。

#### 部長

- ・芝自体は外来種か。

#### 副部長

- ・芝自体は外来種だが、日本の風土に合わせるように品種改良してある。

#### 委員

- ・何年か前に泊小学校が、トラックだけは土で、後は芝生にするという校庭芝生化をしたという記憶がある。
- ・そこに行くまでには、管理の問題がある。自分の家に芝生を植えても、かなりの繁殖力である。いろんなところに伸びて行くし、根も良く張り、後の始末も大変である。
- ・いったん植えるにあたっては、いろんなことを考えて植えないと、大変だなという気がする。
- ・芝生の認識がまだまだ浸透してっていないような気がする。
- ・学校でも夏休みが明けたら校庭にたくさん草が生えている状態である。何とか整備はしているが、運動会の前でも、地域や学校で、草に苦慮している実態がある。
- ・子ども達が本当に外で遊ばなくなり、また、郊外になると子どもの数も少なくなっているので、草も伸び放題になって、なかなか校庭も使われないということで、その辺りが、もう少し鳥取方式のいろいろな形のPRをしていかれないと分からないかなということはある。

#### 副部長

- ・ケースバイケースで、鳥取方式が簡単な安いお金でできるポット苗であるというのは、実は誤認識である。高いものもあるし、安いものもある。
- ・どういうことかということ、いろんな敷地には条件がある。例えば、日の当たらないところとか、水はけが悪いとか、人がたくさんいるとか、たくさん利用頻度があるとか。そういったいろんなケースがある中で芝生化を目指している。その条件にあった芝生を植えていくべきではないかというのが鳥取方式である。
- ・例えば千代川の河川敷では、雑草を刈るだけで芝生に見える。あれは、一番底辺の刈るだけの芝生ということになる。
- ・国立競技場の芝は最高級のものになるが、その辺りも、NPOでは技術指導できる体制を整えている。
- ・芝生は、人間や生き物と一緒に、ケースバイケースで違うということを正しく認識していただきたいと思う。

#### 委員

- ・芝生化については、安来市が取り組んでいるとニュースで聞いた。子どもが外で遊ぶようになったとの父兄からの意見を聞いた。

#### 副部長

- ・最初は出雲だったが安来がやって、松江でも小学校全部で取り組もうということで芝生化に取り組んでいる。

#### 委員

- ・運動会するのに大変ではないか。

副部長

- ・皆さんそう言われる。滑るという意識があるが、そういうことはない。仮に滑っても全然痛くない。

委員

- ・泊でもグランドゴルフ場で高麗芝を張っていたが、排水が悪く、水がたまったら全然だめだった。芝が禿げてしまう。

副部長

- ・学校だけではなく、青空市とか地域のイベントなどの敷地にも利用を広げていくとよい。実際、車で乗り付けして芝生の上に車を置いても大丈夫。タイヤの跡は付くが、1週間経てば元に戻る。
- ・欧米の芝の文化は、感覚が自分達感覚と全然違う。スポーツとともに歩んでいるというか。
- ・ニュージーランドでは、ラグビーが盛んであるが、冬場は練習をしない。
- ・日本のように、至上主義のように子ども達にスポーツを強いることがない。
- ・自分達の基本理念であるが、子どもたちにたくさんいろんな遊びをさせてやりたいと思う。

委員

- ・毎年砂の目土を入れないといけないのではないか。

副部長

- ・そうであるが、雪は大丈夫。雪は保温する。

委員

- ・芝の中に生える雑草は抜いたりする必要がないということか。一緒に刈り揃えれば皆同じということで。

委員

- ・ゴルフ場のようにきれいな芝である必要はないと。

委員

- ・子どもが芝で遊ぶというのは、一過性のものか。あるいは一過性でないのか。
- ・一過性であるというのは、もの珍しいから遊ぶということであろうし、一過性でなければ何か理由があると思う。

副部長

- ・子どもが芝で遊ぶのは、危険じゃないということ体を覚えるからだと思う。
- ・例えば、久松公園でもいきなり逆立ちして遊ぶ子どもがいた。自転車でこけても、もう一度チャレンジする。
- ・土のグランドであれば、何度もチャレンジしたりとか、寝そべて青空を見るという

のがまずないと思う。そういうところで情操が変わってくると思う。

- ・裸足で走るということもある。そのようなことから、一過性のものではないと思う。

#### 部会長

- ・必要な自然環境の保全の一つの手段であると思う。

#### 学校教育課

- ・施設関係の数字は分からないが、市内の小学校では、校庭芝生化を行っている学校は4校だったと思う。そのいずれもが状況が違う。
- ・学校主導でということがないので、あくまでも学校と保護者、若しくは地域とで導入している。
- ・学校によっては、排水が一か所に固まってしまうと、そこだけの芝生がうまく生えないということがあるので、自分達で竹を切ってきて、排水設備から造られたということもある。その辺りから夏休みに作業をされて、芝を植えられて、管理をするということで校庭の芝生化は進んでいる。
- ・現状としては、学校と地域若しくは、保護者とで話し合っていて進めている。維持管理もすべてお願いしている。
- ・そうはいつでも学校の方も自分達が使うので、ほっておくわけにはいかないということもあるが。
- ・何が一番苦労しているのか聞いていると、水の管理である。水がすぐ得られる場所であれば問題ないが、水を引いてくるのに、大変な労力がいるというのは、いくつかの学校で聞く。

#### 委員

- ・水道なら下水の料金も併せて、多くかかるはず。

#### 副部会長

- ・場所によっては、井戸水を利用しているところもある。

#### 学校教育課

- ・また、先ほど言われたように、砂を必ず入れないといけない。入れないと次の年がダメになるということはある。当然費用もかかる。

#### 委員

- ・2～3年はいいが、4年も5年もたつと、管理次第で芝の状態が変わってくる。

#### 学校教育課

- ・現状として、いくつかの学校で進めている状況では、例えば地域のスポーツクラブで使うところと同じところを使うと、そこは禿げる。それで、学校の管理の問題と使用の問題とで、そこで協議をしなければならぬということもあるようである。
- ・ただ、逆にそれがあるがために、学校と地域や保護者が話し合う機会が多くなって、連携が取れているというのも一方では聞く。

#### 委員

- ・どことどことがやっているのか。

## 学校教育課

- ・中ノ郷小、津ノ井小、美保小、若葉台小。賀露と付属が一部

## 委員

- ・美保は去年した。美保は初めから全面。田んぼの井手があって、水はそこからくみ上げると聞いた。
- ・まずは、管理に御協力をお願いしますということで、地域に相談がある。
- ・PTAに話があって、PTAの会長は保護者に協力を依頼すると、管理はなかなかできないということで反対もでる。それでも、地域にも呼びかけたり、いろいろお願いしてようやく前に出たということも聞いた。

## 副部会長

- ・そのためにNPOがあって、例えば維持管理体制についても、行政との間に入る。
- ・利用頻度のことがあるが、芝生とともに歩むという感覚でいてほしい。
- ・スポーツを過度にやることもなくなる。一生懸命やればやるほど、芝は禿げる。だからたまには休むと。
- ・教育において、教育の上での環境は、どの生徒にも平等にやってほしいなと思う。そこはやっているけど、そこはやっていないというのではなく、全面芝をどこの学校でもやってもらいたい。そうしないと不公平だと感じる。

## 委員

- ・久松山の麓で育ったが、禰谷公園、観音院、久松山、平和塔など身近に自然がある。
- ・鳥取駅まで歩いたり、自転車で行くのに苦ではなかった。
- ・コンパクトな所にいっぱい自然がある。
- ・環境保全というのは、あまり整備をしすぎると、そこに生息している小さな生き物が死滅してしまうので、ある程度自然を残しながら、使いやすいような形の市街地にして欲しいという思いがある。
- ・鳥取は梨花ホールの前でも、かなり落ち葉が落ちるが、あれを踏みしめながら歩くのも素晴らしいと思う。
- ・市の職員でも庁舎の中にじっとしているのではなく、いろんな所の自然と向き合って、そんな中でいろんな発想を出したり、心を癒してほしい。そういった環境になればいいと思っている。
- ・鳥取駅も整備されるようであるが、あまり整備しすぎないようにして欲しい。もうちょっと自然を残してほしい。
- ・若桜街道を歩いていくと、真教寺公園があったりする。最近はそんな公園で子どもも遊ばなくなっていることもあり、また、少子化で子どももいないということもあるが、駐車場とかにしないようにして欲しい。
- ・環境教育については、学校でもいろいろと、いろんな形で取り組んでおられるが、「ふるさとクリーンクリーン活動」なども各地域にあった活動が展開できればいいと思う。

- ・そこには地域住民との話し合いや、行政との話し合いの中で、じゃあこういうところで「ふるさとクリーンクリーン活動」をしようとか。そういうようなことがあると、すごく結びついていて、身近に子ども達も入ってもらえるかなあという気はする。
- ・昔、北中では、必ず3つの山を月例登山していた。そういうような自分達の街を見るというような取組も一つだと思う。
- ・整備をものすごくきちっとするのではなく、ある程度自然を残しながら、四季折々の自然を体感できたらなあと思う。
- ・樽谿公園でも虫がかなり有名になってきたし、本当にいい場所だと思う。そのような自然環境を残しながらやっていただければなあと思う。
- ・近所の中学校では、学校にある木がたくさんあるが、その木に名板を付けられた。県の方の事業のようだが。
- ・子どもたちがそのような中で育つと、普段から木の名前を覚える。そういった環境で育つのもすごく大事なかなと思う。
- ・普段から見慣れてくるというのは、大事なかなという気がしている。

#### 委員

- ・本陣山に1年ほど登っていると、四季折々の景色を見ることができ素晴らしいと感じている。
- ・最近街の中を歩いているが、以前は川に鳥もいなかったが、最近よく泳いでいる。
- ・ウォーキングしながら、改めて鳥取の自然の美しさを感じるようになった。
- ・ただ、いろんなごみが落ちている。もう一つ、フンの糞害も気になる。
- ・犬の散歩はいいが、やはり後始末をしないので、あちらこちらにしている。玄関前の歩道にしている。
- ・鳥取にはいろんな美しい自然があるが、それを台無しにしないようなことが必要。そういった、ゴミとか糞害とか、そういったものがなくなればさらに良くなると思う。

#### 環境下水道部長

- ・各地区に不法投棄監視員という方を何人が任命させていただき、それぞれパトロールしていただいている。
- ・平成20年4月から「ポイ捨て禁止条例」が施行され、その中でも犬の糞の後始末ということで定めているが、その条例もまだまだ十分に普及していないということで、更なる広報が必要だと感じている。
- ・今でも若桜街道とか智頭街道とか桜土手については、監視員に、1日朝と夜、定期的にパトロールしてもらっている。
- ・市がシルバー人材センターに委託してやっているが、そういうことがもう少し広がってできればいいと思っている。
- ・今後はある程度定着したら場所を変えとかして、犬の糞の始末の防止にもつなげていきたい。
- ・この問題は各町内会にもお願いしながら、理解を得ながらやっていかなければならない問題であるので、とにかく広報というか、あらゆる場所をお願いする機会を増やし

ていなければならないと思っている。

#### 委員

- ・ポイ捨てなんかは人が見ているときにはしないので、人が見ていない時に捨ててしまう。犬もそう。袋を形だけ持っている人もいる。

#### 副部長

- ・近所のゴミステーションでも、捨ててはいけないものを捨てる人がいた。捨てる人が分かったが、対応できなかった。
- ・何か起こったらいけないので、犯人を捕まえるのではなく、様子を見ようということになった。
- ・湖山は学生も多いので、そのようなことも多い。いたちごっこである。
- ・とにかくきれいにしていくしかない。犯人を捕まえたり、罰金をもらうためにするのではなく、きれいにしたいがためにやっているの。

#### 環境下水道部長

- ・そういう人が分かった場合には、生活環境課に相談してほしい。
- ・行政だけでは目が届かない部分もあり、各町内会と相談させていただきながら協力させていただきたい。
- ・今の話でも、犯人を捕まえるというのが目的ではなく、ごみの不法投棄を防止するというのが目的なので、そのようなことがあったら相談していただき、我々も一緒になって防止に努めて行きたいと思う。

#### 副部長

- ・自転車に乗る人の環境が少ないと感じる。
- ・鳥取砂丘のサイクリングセンターから河原の霊石山まで因幡自転車道というのがあるが、すごい草ぼうぼうであった。
- ・千代川の源太橋まではいいとしても、それ以降の南の方はまったく整備されていない。
- ・せっかく作ってあるのに、なぜ使われていないのかと思う。
- ・いい川が流れて風光明媚である。
- ・やはり昔造ったものは捨てるということはしてはいけないし、共有財産であるので、保全していく必要がある。
- ・自転車に乗る環境も、CO2の排出削減の観点からは必要だと思う。

#### 部長

- ・管理者は決まっているのか。

#### 副部長

- ・県の土木が管理しているのではないか。
- ・昭和53年ぐらいか。サイクリングセンターにレンタサイクルがあるが、そこから乗っていける。

《参考》第3回懇話会後に確認



因幡自転車道（一般県道鳥取河原自転車道路線）

- ・ 起点：鳥取市浜坂、終点：鳥取市河原町片山
- ・ 着手：昭和49年、完了：昭和55年
- ・ 延長：20.3km
- ・ 管理：鳥取県東部総合事務所県土整備局

委員

- ・ 全国的にCO2の問題や、エコの問題も進んでいるので、自転車で通勤されている人も増えているというデータもあるようである。
- ・ 鳥取の場合は、自然環境が比較的いいために、わざわざ自転車で走ろうかという人は少なく、実生活では、車でとりあえず親のところに行ったりとか、買い物に行ったりとかいうケースが多いと感じる。
- ・ そのような生活環境の違いで、なかなか自転車が一般的に使われることにまで至っていないのかなとは思う。

委員

- ・ 佐治の方では自然環境もたくさんあるのではないか。

部会長

- ・ 自然環境がありすぎて、造林地の維持管理が問題となっている。
- ・ スギなどの針葉樹は保水能力がないので、台風シーズンには倒木が多くある。
- ・ 雑木林とか自然に生えた木は、自然にまかしておけばいいが、人が手を加えて植えた樹種は、ずっと手をいれていかないといけない。
- ・ 竹林も増えてきており、間伐に力を入れて行かないといけない。自然が荒れすぎるところもある。

環境下水道部長

- ・ 地球温暖化防止ということで、温室効果ガスを25%排出削減するという目標に向かって、来年度、22年度に鳥取市としても削減の方法をどうするかということを検討しなければならない。
- ・ そのようなことがあるので、自転車の活用ということも、ウェートを上げて行かないといけないと思っているところである。
- ・ その他、自然エネルギーの利活用なども含めて、来年度もう少し具体的に中身を詰めて市民の皆さんにお願いしていく予定にしている。

委員

- ・ 東京などでは自転車の方が増えたが、自転車が走れるような道路整備がなされていないために、危険がたくさんあるということがある。
- ・ 市街地を自転車で通っていただくことが多くなると思うが、道路の状況が、自転車で通って安全でスムーズに行くかどうかを、まず検証してから進めて行かれた方がいいような気がする。

委員

- ・今日見たら若桜街道が、歩行者と自転車に仕分けがしてあった。

委員

- ・それはすごく大事なことだと思う。

委員

- ・自転車は基本的には車道を走らないといけませんが、若桜街道では、歩道を2つに分けるというようなことを、国交省が実施している。
- ・鳥取市は実証事業ということで、道路を一方通行にして、自転車が通れるスペースを作るための実験をしてみようということで、市も動かされたが、警察がうんと言ってくれなかった経緯がある。
- ・そういうことがあるので、どうやって安全を確保するかということは問題である。

委員

- ・鳥取の主要道路の脇の部分は狭い。歩いていても、自転車と車と歩行者といたら危ない。そのようなスペースがないところが多い。
- ・大変かもしれないが、やり方次第ではうまくいくケースもあるようなので、知恵を使う方向で、CO2削減の方向付けを行ってほしい。

副部長

- ・パフォーマンスも必要。例えばこの日は絶対車を使わないとか。自転車を使って気付くことも必要である。

委員

- ・人との出会いは、歩くことと自転車でないが無理。ふれあうという意味では、歩くことと自転車が一番いい。

部長

- ・だんだん自転車を使う人も増えて行っていると思う。駅南庁舎も自転車が多い。

委員

- ・職員にも自転車の利用を進めているはず。

委員

- ・鳥取市はノーマーカーデーとか、そういったものをやっているのか。

環境下水道部長

- ・毎月、第1、第3水曜日にはノーマーカーデーを実施しているが、なかなか効果が上がっていない。
- ・どうしたら効果が上がるかということを今検討しているところ。
- ・なかなか難しいが、どういうやり方が皆さんにその気になっていただけるかということである。

副部長

- ・てっとり早いのは、健康にもいいということ。

委員

- ・以前会社でノーマーカーデーをやっていたが、門の前に職員が立っていた。
- ・罰則等まではないが、抑制力になっていたと思う。

委員

- ・一番いいのは、勤めている範囲のところまでは自動車でもいいが、そこからは徒歩なり自転車で行くという形をとるということである。
- ・市役所の職員も、以前、通勤途上にごみを拾って歩くとかいうこともあったが、通勤途上に街をきれいにするというような取組もされたらと思う。
- ・市の職員もいろんな視点で街を見ることも重要である。

環境下水道部長

- ・職員が先頭に立って何事もやらなければならないということは分かるので、そういう方向にもっていきたいと思う。

以 上